

Voice

～海から学ぶ教育効果 vol.12～

YMCA 阿南国際海洋センターをご利用いただく幼稚園・各種学校・各種教育団体のみなさまから、実際の活動を通して得られる効果や参加者の変化・成長など、「海から学ぶ教育効果」についての『Voice』をお聞きしました。



大阪市立水都国際中学校・高等学校
開設準備室
IB コーディネーター
熊谷 優一 先生

『海で育む生きる力』

YMCA 阿南国際海洋センターでは、スタッフの指導の下、カヤック・カナディアンカヌー・ジャンボカヌー・ヨット・カッターなど、個人で取り組めるものからグループで取り組むものまで様々なアクティビティを同時に展開することが可能です。ライフジャケットを着用の上、命を預けるパディと一緒に海洋プログラムを行います。

活動に際しては、「一度陸を離れ、出艇したら、再び上陸するまでその艇のクルーですべてに対応しなければならない」という『シーマンシップ (Seamanship)』に基づき、スタートしたらみんなで力を合わせてやり遂げることを目標に、様々な問題が起こったときに話し合いながら解決するプロセスを重視します。子どもたちは活動を通して「自分+α」の命についても気を配ることができるようになります。

海という「命の危険に直結する」可能性がある環境の中で、命の大切さ、安全、仲間、自己および他者を理解するメタ認知、主体的に関わる力、コミュニケーションスキル、ソーシャルスキル、様々な変数の中で課題を発見し、仲間と解決していく力が確かな肉体的感覚を伴って培われます。さらに高学年の子どもたちには、この活動を安全教育・防災教育など様々な学びに発展させることが可能です。例えば、「プログラムを実施するかしないかを判断するうえで、どのような情報を収集し、そのうちどの情報を採用するのか」など、子どもたちが普段学校現場で学んでいることを有機的につなげる総合的学びそのものです。

私自身もカヌーやカヤック、ヨットなど体験してみて、うれしい発見がありました。東日本大震災の被災地出身の私は、この7年ずっと海を避けてきました。でも、今回、様々なマリナクティビティをしていて楽しかったんですね。そして海が怖くありませんでした。海は私のアイデンティティを形成する上で欠かせない存在であったことを再確認しました。